想いを築く。心に響く。
髙松建設
TakaMatsu
詳しくは 髙松建設 検索
0120-53-8101

産経新聞

令和元年5月1日水曜日
（2019年）　日刊27411号
即位の日

産業経済新聞（サンケイ）
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2019
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
電話（06）6633-1221（大代表）

戸建もマンションも
リフォームするなら
住友不動産の
新築そっくりさん

朝の詩

新しい元号よ
埼玉県所沢市　増田　博　81

新しい元号よ
戦争と災害は
連れてくるな
平成の世は
戦争はなかったが
災害で苦しめられた
新しい元号よ
その時代の誰もが
平和の時代だと
歴史に残る元号で
あって欲しい

（選者　八木幹夫）

新天皇ご即位

令和幕開け

きょう剣璽等承継の儀

皇太子さまは1日、第126代天皇に即位された。30年余り続いた「平成」が終わり、「令和」に同日改元された。平成時代の天皇陛下は4月30日で譲位し、上皇となられた。天皇の譲位は江戸時代の光格天皇以来202年ぶりで、憲政史上初めて。天皇陛下は59歳で、戦後生まれの初の天皇となられた。陛下は5月1日、皇居・宮殿で国事行為「剣璽等承継の儀」と即位後朝見の儀に臨まれる。

皇太子妃雅子さまと皇嗣として、皇太子の役割を担われる。長男の悠仁さまが継承順位2位となられた。85歳の上皇さまは、これまで担ってきたほぼ全ての公務を陛下に引き継がれた。

上皇さまは4月30日午後5時、皇居・宮殿「松の間」で「退位礼正殿の儀」（退位の礼）に臨まれた。

退位の礼では、歴代天皇に伝わる三種の神器のうち、天叢雲剣（草薙剣）の複製品と八尺瓊勾玉（公務で使われる天皇の印「御璽」、国の印章「国璽」を、側近が「案」と呼ばれる台の上に安置。安倍晋三首相は自然災害などで困難に直面した際、常に国民に寄り添われてきた上皇さまに「明日への勇気と希望を与えてくださいました」と述べた。上皇さまは国民に「心から感謝します」と述べられた。

その上で、令和の時代が「平和で実り多くあること」を願い、お言葉を締めくくられ、支えてくれた国民に、心から感謝します」と述べられた。

退位の礼には上皇后さまが陪席されたほか、天皇、皇后両陛下、秋篠宮ご夫妻をはじめ、女性皇族全員がご参列。安倍首相と閣僚のほか、衆参両院の正副議長、都道府県知事の代表と配偶者ら約290人も出席した。

剣と勾玉などは5月1日午前0時をもって陛下に引き継がれた。陛下は1日午前に宮殿で行われる「剣璽等承継の儀」に臨み、続く「即位後朝見の儀」で、三権の長らと面会して天皇として最初のお言葉を述べ、即位を告げられる。

今回の譲位は、平成29年6月に成立した、上皇さま一代限りで認める皇室典範特例法に基づいて行われた。

「退位礼正殿の儀」に臨まれる天皇、皇后両陛下＝30日午後、皇居・宮殿「松の間」（代表撮影）

「支えてくれた国民に感謝」

上皇さま、退位の礼で

上皇さまが天皇在位中における言葉を述べられる機会は、30日の退位礼正殿の儀が最後となった。

上皇さまは「国民への深い信頼と敬愛」の下、30年に及ぶ務めを果たせたことは「幸せなことでした」とご回想。「象徴としての私を受け入れ、まは皇嗣承順位1位の皇嗣として、皇太子の役割を担われる。長男の悠仁さまが継承順位2位となられた。85歳の上皇さまは、これまで担ってきたほぼ全ての公務を陛下に引き継がれた。

上皇さまは4月30日午後5時、皇居・宮殿「松の間」で「退位礼正殿の儀」（退位の礼）に臨まれた。

退位の礼では、歴代天皇に伝わる三種の神器のうち、天叢雲剣（草薙剣）の複製品と八尺瓊勾玉（公務で使われる天皇の印「御璽」、国の印章「国璽」を、側近が「案」と呼ばれる台の上に安置。安倍晋三首相は自然災害などで困難に直面した際、常に国民に寄り添われてきた上皇さまに「明日への勇気と希望を与えてくださいました」と述べた。上皇さまは国民に「心から感謝します」と述べられた。

その上で、令和の時代が「平和で実り多くあること」を願い、お言葉を締めくくられ、支えてくれた国民に、心から感謝します」と述べられた。

退位の礼には上皇后さまが陪席されたほか、天皇、皇后両陛下、秋篠宮ご夫妻をはじめ、女性皇族全員がご参列。安倍首相と閣僚のほか、衆参両院の正副議長、都道府県知事の代表と配偶者ら約290人も出席した。

剣と勾玉などは5月1日午前0時をもって陛下に引き継がれた。陛下は1日午前に宮殿で行われる「剣璽等承継の儀」に臨み、続く「即位後朝見の儀」で、三権の長らと面会して天皇として最初のお言葉を述べ、即位を告げられる。

今回の譲位は、平成29年6月に成立した、上皇さま一代限りで認める皇室典範特例法に基づいて行われた。

「退位礼正殿の儀」で、お言葉を述べられる上皇さま。隣では上皇后さまが見守られていた＝30日午後、皇居・宮殿「松の間」（代表撮影）

最後のお言葉 全文

今日をもち、天皇としての務めを終えることになりました。

ただ今、国民を代表して、安倍内閣総理大臣の述べられた言葉に、深く謝意を表します。

即位から三十年、これまでの天皇としての務めを、国民への深い信頼と敬愛をもって行い得たことは、幸せなことでした。象徴としての私を受け入れ、支えてくれた国民に、心から感謝します。

明日から始まる新しい令和の時代が、平和で実り多くあることを、皇后と共に心から願い、ここに我が国と世界の人々の安寧と幸せを祈ります。

平成から令和へ

平成最後 厳かに　2面
新時代へ懸け橋　3面
新時代幕開け　3面
「令和」対談　7面
皇太子時代の歩み　8、9面
令和のご公務　13～15面
両陛下のご発言　17面
グラフ　19～21面
令和 あふれる光　27面
「平和」続く祈り　28面
関連記事　29面
5、6、23面

令和に寄せて

麗しき大和の国柄を守れ

櫻井 よしこ
国家基本問題研究所理事長

日本人、麗しき善き大和の国であれとの願いを込めた「令和」の時代が始まった。十七条憲法の精神を引き継ぐとされる元号、令和の時代の課題は聖徳太子が脱中華と大和の国造りを目指したように、日本の国柄を誇りをもって定着させることである。平成の御代には多くのことが成された一方、積み残しの課題も多い。その筆頭が日本の国柄とはおよそゆかりのない現行憲法の改正である。

敗戦当時、内外の視線は昭和天皇に厳しかった。戦勝国では「天皇戦犯論」「天皇処刑論」が展開された。先人たちはそれら敵意溢れる糾弾から、皇室を戴く日本の国柄を守り日本国として生きのびるために、東洋史のうち、国史と東洋史の教科書は博士自らが執筆した。「昭和天皇の教科書」国史」がそれで、見事な歴史書である。優れた歴史観を身につけられた昭和天皇として、初めて日本はあの敗戦を乗り切れた。

だが、国柄を忘れてはならないとの昭和天皇の国民への語りかけとは反対に、米国は教育を通して日本人に影響を及ぼし続けた。米国の情報操作の苛烈さはここではおくが、米国は天皇こそは東京裁判にクエスチョンマークをつけた。夫人は著書『皇太子の窓』に、「1946年の春、昭和天皇が家庭教師につけるよう提案した（瀬畑源）『象徴天皇制の形成過程―宮内庁とマスメディアの関係を中心に』とし、「アメリカ人の家庭教師は占領軍から押しつけられた」との推測は事実に反すると書いている。

一方、マッカーサーの軍事秘書、フェラーズは46年1月、吉田茂外相に「皇太子は西洋の思想と習慣を学び始めるべき」として「円熟したアメリカ人女性を」家庭教師にするよう提案した（瀬畑源）『象徴天皇制の形成過程―宮内庁とマスメディアの関係を中心に』。

「アメリカ人の家庭」一橋大学機関リポジトリ。これは天皇のご依頼の約2カ月前だ。背後に米国の意図が見えないか。

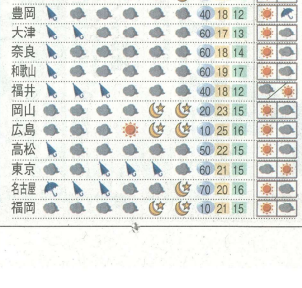
務めた。皇統の継承者にとって不可欠の学問である歴史は、白鳥博士が7年間一人で受け持ち、国史、東洋史、西洋史のうち、国史と東洋史の教科書は博士自らが執筆した。「昭和天皇の教科書」国史」がそれで、見事な歴史書である。優れた歴史観を身につけられた昭和天皇として、初めて日本はあの敗戦を乗り切れた。

だが、国柄を忘れてはならないとの昭和天皇の国民への語りかけとは反対に、米国は教育を通して日本人に影響を及ぼし続けた。米国の情報操作の苛烈さはここではおくが、米国は天皇こそは東京裁判にクエスチョンマークをつけた。夫人は著書『皇太子の窓』に、「1946年の春、昭和天皇が家庭教師につけるよう提案した（瀬畑源）『象徴天皇制の形成過程―宮内庁とマスメディアの関係を中心に』とし、「アメリカ人の家庭」一橋大学機関リポジトリ。これは天皇のご依頼の約2カ月前だ。背後に米国の意図が見えないか。

5面に続く

産経抄

作家の山本周五郎が、昭和32年の暮れに発表したエッセーでぼやいていた。どうしてこんな寒い季節に「おおみそか」と「新年」を隔てる木戸を設けたのか、と▼青葉の季節の5月なら、もっと明朗な気分で過ごせるだろうに、というのだ。周五郎のアイデアは、意外な形で実現した。10連休の最中の今日、「平成」から「令和」へと続く木戸が静かに開かれる▼皇居では午前中、新天皇の即位に伴う厳かな儀式が行われる。今年10月の即位の礼には、海外の要人や国内の代表者が参列し、天皇陛下が即位を内外に宣言される。万物が生きる喜びを謳歌するこの季節こそ、新しい御代の始まりにふさわしい▼新天皇は、利水や防災など水問題をライフワークとされてきた。今後も公務の間を縫って、研究を続けられるはずだ。利水といえば、14年前の5月は五月に誕生した。僕は木の葉をふみ若い樹木たちをよんでみる／いまこそ時、僕は僕の季節の入り口で／はにかみながら鳥たちへ／和」へと続く木戸が静かに開かれる▼皇居では午前中、新天皇の即位に伴う厳かな儀式が行われる。今年10月の即位の礼には、海外の要人や国内の代表者が参列した。万物が生きる喜びを謳歌するこの季節こそ、新しい御代の始まりにふさわしい▼新天皇は、利水や防災など水問題をライフワークとされてきた。今後も公務の間を縫って、研究を続けられるはずだ。利水といえば、14年前の5月は五月に誕生した。僕は木の葉をふみ若い樹木たちをよんでみる／いまこそ時、僕は僕の季節の入り口で／はにかみながら鳥たちへ／和」へと続く木戸が静かに開かれる▼皇居では午前中、新天皇の即位に伴う厳かな儀式が行われる。今年10月の即位の礼には、海外の要人や国内の代表者が参列



きょうの紙面
「丹波篠山市」スタート　26
囲碁・将棋　11
スポーツ　22、23
週間天気　26
BS・CS・ラジオ　24
◇おことわり　オピニオン面、「話の肖像画」、「朝晴れエッセー」は休みます。

紙面・記事へのご意見・お問い合わせ
06-6633-9066（6日までみあます）
edokusha@sankei.co.jp
販売・配達に関するお問い合わせ
06-6633-9357（平日9時～19時、土日祝日9時～17時）
https://o-sankei-hanbai.com/c/（平日のみ）
購読のお申し込み
0120-34-3733（平日9時～19時、土日祝日9時～17時）
https://reader.sankei.co.jp/reader/

OBANAYA CEMENTEX

100

since 1917

大正、創業
昭和、成長
平成、隆盛
令和、未知の領域へ挑戦

創業者
佐藤正晴

次の100年も、社会に必要とされる会社であるために。

大正6年に私の祖父である佐藤正晴が、尾花屋商店という屋号で米穀商として創業いたしました。

社名の「尾花屋（オバナヤ）」の尾花とは秋の七草のひとつ「尾花」のこと。別名は皆さまよくご存じの「ススキ」と呼ばれる植物です。その旺盛な成長力、繁殖力からススキの花言葉は「活力」。同時に、真っすぐに立つ草姿から「心が通じる」。あるいは、かつて秋の収穫を神へ感謝するために、ススキを飾ったことから「頭を下げる」「感謝する」という意味もこめられています。

昭和2年から石灰石粉末の販売を開始し、その後、名古屋市最初のアスファルト道路舗装向けにタンカルを販売いたしました。昭和28年には株式会社化して、タンカルの販売を建築や土木のほか窯業や畜産へと拡大しました。

今日に至るまでに幾多の社会情勢の変化がありましたが、お客様の要望に応え、時代に求められる技術と製品開発を行うことで、変化する時代を経営陣と社員一同の努力で乗り切って、現在があることに感謝しております。

創業時より大切にしてきた社是は『自他祝福』。自他祝福とは、自分を取り巻く人々の幸せが自分の祝福につながるという意味です。

自分を取り巻く人々を幸せにするためには、私は会社の従業員がまずは幸せにならなければならないと考えています。全従業員と家族の幸せが働きがいの持てる職場を生み、それがお客様や協力会社に対して良い仕事ができる原動力につながるのだと思います。

次の100年に繋げていくために「令和」新時代も皆さまにより良い製品・サービスをお届けできるようチャレンジしてまいります。

代表取締役社長
佐藤正徳

◆創業時：尾花屋商店

オバナヤ・セメンテックス株式会社

［本　社］〒467-0067 名古屋市瑞穂区石田町1-48　TEL.052-851-9361

当社は八重洲に今年3月開館した「杉原千畝Sempo Museum」の協賛企業です

www.o-cc.com

「平成」に感謝申し上げますとともに「令和」の幕開けを心よりお祝い申し上げます